

受胎率を高める6つのポイント

診療所だより



良い牛は一年一産です

和牛の繁殖経営で最も大切なことは、毎年確実に仔牛を生産することです。

効率よく和牛の子取り生産を行なうにはどうすれば良いか。よくいう『一年一産』の技術目標を達成するための、基本技術を持つかどうか「鍵」だと思います。

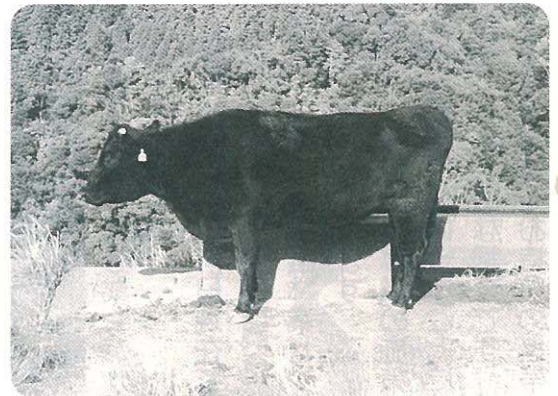
ここで今回は『受胎率を高める6つのポイント』についてお話しします。

一、粗飼料を十分に給与する

牛は反すう動物ですから、草を十分与えることが必要です。粗飼料の不足を濃厚飼料に依存する度合いが高くなると代謝病や卵巣疾患をおこします。

特に分娩前後の栄養管理は重要で低栄養にならないよう増し飼いをすることが大事です。増し飼いにより繁殖機能回復が早まります。

二、運動・手入・日光浴の励行
運動や手入は、牛体の血行を良くし、新陳代謝を高めま



す。特に分娩後の運動の効果

三、畜舎を衛生的に保つ

糞便などによる畜舎内の汚れは、細菌が住みつく好条件になります。

細菌などの感染により病気が発生します。

四、発情の発見

分娩後に繁殖機能が回復し発情再帰した母牛では、発情を周期的に繰り返します。受胎率を高めるには、発情時に適期に種付することです。

そのためには、まず、発情

の発見が第一歩で、発情をよく観察し、発情時の性行動により受精適期を判断して人工授精することが大切です。

牛も個体差があります。自分の牛は自分自身の経験をもとに受精適期の把握が重要です。このところは牛から教えてもらって下さい。

五、異常家畜の早期発見

健康な牛は分娩後、一定期間を経過すると発情します。

分娩後二カ月経過しても発情しないもの、発情の時期以外に粘液を出すもの三回種付しても受胎しない牛は、獣医師に診察してもらいましょう。

六、早期に妊娠鑑定を受ける
種付後、二カ月を経過したら必ず妊娠鑑定を受け、妊娠を確認しましょう。